

船舶事故等調査報告書

平成23年9月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | | |
|-------------|---|---|
| 事故等番号 | 2011長第35号 | |
| 事故等種類 | 乗揚 | |
| 発生日時 | 平成22年11月2日 03時00分ごろ | |
| 発生場所 | 長崎県大村市大村港（富ノ原地区） 長崎空港飛行場灯台から真方位015° 2.5海里付近 （概位 北緯32° 56.9′ 東経129° 55.7′） | |
| 事故等調査の経過 | 平成23年5月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 | |
| 事実情報 | | |
| 船種船名、総トン数 | 砂利運搬船 第七勝 ^{かつえい} 栄丸、453トン | |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 136380、株式会社水嶋海事工業 | |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、五級海技士（航海） | |
| 死傷者等 | なし | |
| 損傷 | ビルジキール凹損及びプロペラ曲損 | |
| 事故等の経過 | 本船は、船長ほか4人が乗り組み、砕石約800tを積載し、船首約3.4m、船尾約5.0mの喫水で大村港（富ノ原地区）において、約2ノットの速力で船首を北西方に向けて着岸作業中、平成22年11月2日03時00分ごろ、船尾付近が海底に接触した。 | |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 3 海象：潮汐 上げ潮の初期 | |
| その他の事項 | 船長は、月に約3回、本事故発生場所付近の岸壁への着岸操船を行っていた。 船長は、本事故当時の潮汐が低潮時に近いこと、及び本事故発生場所付近の水深があまり深くないことを知っていた。 | |
| 分析 | 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析 | あり なし なし 本船は、低潮時ごろに大村港（富ノ原地区）の岸壁に着岸作業中、余裕水深を確保していなかったことから、岸壁付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、夜間、本船が、低潮時ごろに大村港（富ノ原地区）の岸壁に着岸作業中、余裕水深を確保していなかったため、岸壁付近の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。 | |
| 参考 | 今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・港内での着岸作業に当たっては、余裕水深を確保すること | |